参考資料１

中央教育審議会大学分科会（第 183 回）における主な意見
（令和７年４月２３日）

１．認証評価制度の見直し及びそれに伴う情報公表の内容・方法の改善

○ 評価は何のためにするのか、その評価はどのように活用されて、誰にどのような効果をもたらすことを期待しているのかを改めて整理し、評価された主体の次の行動変革につながっていくことができるよう、大きな視点を意識した議論を行っていくことが重要。

○ 認証評価について、高いレベルの研究と職業教育の両方やる大学、研究に特化した大学、職業教育に特化した大学は、別途、評価基準を作らないといけない。

○ 多面的に評価をすることになると評価軸が細かくなって、評価する側、評価される側の双方の負担が増大する。この評価の効果と大学の負担のバランスを考えた上で、評価の目的にあった制度について議論をする必要がある。

○ 認証評価制度を海外比較すると、国内の認証評価は設置基準を満たしているかという議論に時間が使われている。ヨーロッパ、英国、米国では、いずれも前回の認証評価からどれだけ伸びているか、その伸び代の評価がなされる。その結果も認証の可・不可ではなく、3 年の認証か、5 年の認証など 2 段階の認証がついて、各学校に次はもっと頑張ろうというインセンティブを与える仕組みがある。

○ 認証評価機関は、器を測る機関にすぎない。教育の質保証のシステムが機能しているかどうかをメインにチェックしているものであるが、社会は、教育内容の良し悪しを判断することを期待している。多様化の時代に、教育内容の優劣について、法的に基準をもって決めるのはほぼ不可能なので、認証評価の現状と質保証の定義を理解した上で議論してほしい。

○ 既存の大学も新しい大学も挑戦して成長していかなければならない。そして、その挑戦、成長を正しく評価して、それを国が支援する仕組みも重要。

２．学士・修士５年一貫教育制度の在り方

○ 学び続ける力をつけるには時間がかかるので、学部、さらには大学院で、しっかり時間を使う教育の場をつくっていくことが必要。

○ 学部と大学院の関係性、4 年制大学、短期大学、専門職大学、専門学校の制度的役割や接続関係、さらには、修士、博士の構造的整理に関わる。制度全体が複雑化している中で、その関係性を整えることが求められる。

○ 学部と大学院の接続を見直して、特に人文・社会科学系において、より多くの学部生が大学院へ進む魅力あるプログラムを担保する制度をつくることが重要。

○ 人文・社会科学系の大学院において、データサイエンスなど産業界が求める専門的な知識を効率よくタイムリーに提供することが重要になる。

３．学生が主体的・自律的に学修するための環境構築の促進

○ これからの時代は、一人一人が単に知識ということではなくて、知見を身につけて、自分の人生に生かしていくという環境づくりが必要。誰かに倣うのではなくて、自己思考力、自己決定力に結びついていくような教育が必要。

○ アメリカの高等教育は、学ぶことが楽しい、調べることが面白い、それを表現・発表

することが楽しいと思わせてくれる。日本の教員は、FD で学ばなければいけないことがたくさんある。

○ 質保証システムに関して、認証評価制度、FD、IR、可視化などの施策を足して取り組んできたが、その成果が十分に実感されず、疲弊という言葉すら聞かれるようになっている。こうした足し算の取組が重要である一方で、引いて整理し直すことが進めば、教員にある程度の余裕が生まれまして、結果として、一つ一つの事業や教育活動により力を注ぐことができるようになる。

○ 授業内容の一定の標準化や教育システムの整備が進まなければ、今後重視される機関間、設置者間の連携も現実にはなかなか進まない。

○ 実践的な職業に役割を担ってきた短期大学制度について、世界に目を向けたときにショートサイクルの高等教育は多様な役割を果たしていることから、「知の総和」向上には短期の高等教育機関は役割を果たせる。

○ 産業界が大学に求めることは、大学までの長い学びの道のりが社会貢献につながること、仕事と結びつくために、覚えるだけではなく、共感し議論し考えて答えを出す力と行動し諦めずに結果を出す力を体験的に学べるカリキュラムが多く構築されることである。

４.「出口における質保証」の促進

○ 60%以上の若者が大学進学する中で、大学がどのような役割を担っていくのかに関しては、ハイエンドだけではなくて、分厚い中間層の若者たちの人材育成を見据えていかなければならない。

○ 教育の価値として、どういう人材を多様な各高等教育機関で育成していくのかを社会に明示することが重要。特に、予測不可能な時代において、問うべき問題を見つけ、それに対するアプローチを試行錯誤しながらトライしていくという社会を引っ張っていく人材を育成していくことが、社会において大学の役割として認識されるべき。

５．その他

（AI について）

○ 今後、AI が大学教育にどういう影響を及ぼしてくるか、AI とどのように大学が共存していくか、大学教育にとっては大きな課題。

○ 学生が普通に AI を使うようになった状況の中で、大学教育はどういうことが可能になるか考えるべき。

以上